

❁花❁火❁

玉里村企画課

下山田 智 晶



最近、心を打たれたもの。
それは、秋の夜空に咲いて散った花火の
美しさ……。

先日、土浦の花火大会に出かけた。60回目を数
える今回は記念大会ということで、例年より盛大
に行われるという。

この全国花火大会は、不況にあえぐ商店街の救
済と霞ヶ浦航空隊殉職者の慰霊を目的として、大
正14年に始まったそうだ。ただのお祭りではな
いと知ると、何となく気が引き締まる。

予想はしていたけれど、道路は大渋滞。車が先
へ進まない。そろそろ始まる時間かなあと思った
その瞬間、空が光った。

「あっ、見えた見えた。」

「どれどれ……。」

「ほら、見て。」

「あ、ほんとだ。」

「わあ、キレイ……。」

私は子供のようにはしゃいでいた。渋滞のイラ
イラは、いつの間にかどこかへ吹き飛んでいた。
花火を見ながらのドライブなんて、ちょっとぜ
いたくかなと思うと満ち足りた思いさえした。結局、
土手に車をとめたときは、大会開始から一時間が
過ぎようとしていた。

外の空気はやっぱり美味しい。大きく深呼吸を
し、空を見上げる。秋冷とはこのことだろうか。
10月の風は冷たく肌を刺し、心にまで染み透るよ
うだ。

大好物のたこ焼きをほおぼりながら歩く。人ご
みから少しはずれたところに特等席を見つけた。
ここなら背の小さい私にもよく見えそう……。

次々と打ちあげられる花火。赤橙黄緑青藍紫、

色とりどりの花火が夜空を彩る。まるで、水彩画
のようだ。あまりの美しさに、人々の間から、時
には歓声が、時にはため息がもれる。

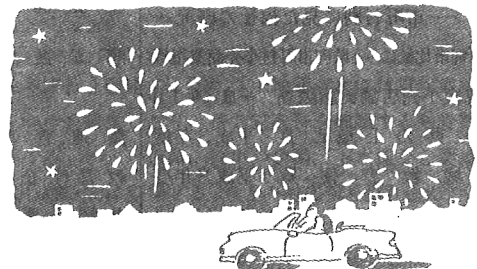
ドスンという音が心臓にまで響いてくる。大き
な大きな花火が私にふりかかってくるようだ。そ
して私を包みこんでしまいそうだ。一瞬、おとぎ
の国にいるような幻想を覚える。ここまで迫力
があると気持ちがいい。心が洗われるような気が
する。私はその美しさに酔いしれていた。

美しいものに触れると、心まで澄んでいくよ
うな気がする。忘れていた大切な何かを想い出し、
優しい気持ちになれる。そして、小さなことに心
を悩ませている自分がちっぽけに感じられ、ゆっ
たりした気持ちになれる。私は、そんなひととき
がたまらなく好きだ。

思えば、私は幼い頃から花火が大好きだった。
中でも、いちばんのお気に入りには線香花火。浴衣
を着て花火をしないと、夏が来たという実感がわ
かない。冬の花火もまた風情がある。花火には似
合わない季節などないようだ。こんなに花火が好
きなのは私だけなのだろうか。

「花火なんて子供のするものだよ。」

と言われたこともあるけれど、かまわない。心が
元気になれるのだから。来年もきっと、この花火
大会を観に来たい、渋滞の帰り道でそう思った。



経 済 動 向

国内の動き

●長期プライムレート 0.6%下げ6.9%に

日本興業銀行などの長期信用銀行は長期プライムレート(最優遇貸出金利、現行年7.5%)を10月1日から0.6%引き下げ、年6.9%とする方針を固めた。長信銀の資金調達手段である5年物利付金融債の流通利回りが低下したため、7%を下回るのは昨年1月以来1年9ヵ月ぶり。都市銀行なども短期プライムレート(現行年7.375%)を10月1日か

ら0.375%引き下げ、年7.0%とする。貸出金利のほぼ一斉の引き下げは、企業の設備投資を金融面から下支えする材料になる。都市銀行の住宅ローン金利も11月から最大0.6%下がるため、個人も利下げの恩恵を受けることになる。

(9月26日付 日経)

●「労働移動」1000万人超す

労働省が発表した90年の雇用動向調査(速報)によると、昨年1年間に就職、転職、退職した労働者(労働移動者)は延べ1055万人と、初めて1000万人を突破した。女子を中心に転職者が大幅に増加したため、フルタイムで働く常用労働者数に占める割合である延べ労働移動率も32.0%と

16年ぶりの高水準だった。この理由について同省は「好景気や人手不足を背景に労働者の職業選択の幅が広がり、転職への抵抗がなくなるなど価値観が多様化したため」と分析している。

(9月7日付 日経)

●鉄鋼各社 粗鋼、4～5%減産

鉄鋼各社は91年度第3四半期(10～12月)、粗鋼ベースで前年同期比4～5%の減産に踏み切る。四半期ベースで減産するのは89年1～3月期以来、2年9ヵ月ぶり。輸出の伸び悩みや自動車、建築向け鋼材需要の落ち込み予想から在庫調整に入る。第4四半期(92年1～3月期)も同じ程度の

減産を続け、下期合計では5%台の減産を見込む。91年度の粗鋼生産量は、90年度実績の1億1170万トンを約200万トン下回るとの見方が大勢を占めており、86年度以来実に5年ぶりに前年実績を下回る可能性が大きい。

(9月18日付 日経)

県内の動き

●国内最大の石炭火力 北茨城市に建設

東京電力は北茨城市に対して国内では最大規模の石炭火力発電所(最終出力400万キロワット)を建設するための協力を要請した。来年以降、環境調査に着手し、2003年ごろにまず出力200万キロワット規模で運転開始をめざす。最終計画である400万キロワット規模の発電プラントまで含めると総額1兆円にのぼるプロジェクトになる。北茨城市

では「環境問題など難しい調整があるが、地元の意向を聞きながら検討したい」と前向きな姿勢を打ち出している。一方、漁業関係者は「頭から反対する気はないが、環境に影響のある施設なら拒否」と慎重な構えを見せており、今後、市と住民との意見調整が焦点となりそうだ。

(9月18日付 日経)

●県南・県西に住宅14万戸

茨城県は、2000年までに県南、県西地域の住宅供給に関する方針や供給目標量などをまとめた計画を策定した。今後10年間で県南、県西の23市町村に14万戸の住宅をつくることを目標とし、住宅供給を促進するための資金支援や関連公共施設整備など具体策を盛り込んだ。近く、国、県、自治体で構成する推進組織を設立する。

住宅建設を促進するため、「土地所有者に賃貸住宅経営のノウハウを提供したり、持ち家取得を補助する融資制度を充実する」ほか、「道路、河川、公園、下水道など関連公共施設も積極的に整備する」などの対応策を盛り込んでいる。

(9月18日付 日経)